

大学の世界展開力強化事業（平成26年度採択） 中間評価結果表

大 学 名	北陸先端科学技術大学院大学
整理番号	i-3
事 業 名	インド等の海外で活躍できる知的にたくましい先導的科学者・技術者の育成

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">B	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
(コメント) <p>本事業は、体系的カリキュラムや厳格な成績評価等による先進的教育体制、国際協働教育プログラムの展開などのグローバル体制を備え、既にダブル・ディグリー・プログラムの実績をもつデリー大学に、インド理科大学院大学とインド工科大学ガンディナガール校を加えた3つの大学と連携し、質の保証を伴う学生交流を行うことにより、「知的たくましさ」を備えた日印両国の産業界・学术界での架け橋となるリーダーを育成することを目的としている。</p> <p>事業を進めるにあたり、国際ワークショップやセミナーなど学生の参加しやすい短期交流から始まり、協働教育研究指導プログラム、ダブル・ディグリー・プログラムといった中・長期の交流へと段階的に進める工夫がされた計画や、企業との連携が良好に進められている点は評価できる。</p> <p>一方で、本事業の柱として当初計画にあったインド理科大学院大学との単位認定を伴う学生交流及びデリー大学とのダブル・ディグリー・プログラムが実現できないことが事業開始後に判明したことは、この事業の根幹に関わる問題であるだけに慎重に対処すべき課題といえる。</p> <p>中間評価までの派遣・受入学生数については、総数としてはおおむね目標を満たしているものの、上記問題の影響により平成27年度の単位取得を伴う受入学生数が目標を大きく下回っている。単位認定を伴う交流は、プログラムの質保証という観点から、また学生へのインセンティブの付与という観点からも重要であることから、当初目標が達成できるよう計画全体の見直しを積極的に行う必要がある。</p> <p>今後は、現状の問題を早急かつ慎重に分析して対策を立て、これまでのアジア地域の国々との交流実績と、その過程で培ったノウハウを活かして実行に移し、高く評価される成果を上げることを期待する。特に、ダブル・ディグリー・プログラムについては、実現に際して想定される問題点などの精査が不足しているように見受けられるため、早急に情報収集に努め、相手大学との間で誤解のない合意が形成されることが必要である。</p>	